

改革の基本的考え方について

知識基盤社会の本格到来の中で、21世紀を生き抜いていける資質や能力を備えた人材の育成に対応した教育が求められる。



しかしながら、学校現場では、生徒指導上の諸課題への対応、特別支援教育の充実、外国人児童生徒への対応等様々な課題が急増するとともに、学力の向上や家庭・地域との連携協力の必要性も指摘されている。



これからの学校教育は、①上記諸課題への対応や、②一斉指導を行うだけでなく、個別化や創造的・協働的な学習活動を実施し、地域の力も活用し、学びの転換と教育の質の向上が求められている。



これからの教員は、教職活動の一連のプロセスを高度にマネジメントしながら実際に遂行する力や他の同僚とチームとして対応する力が必要。



教員の資質能力向上方策の改革の方向性

○教職生活全体を通じて教員の資質能力向上を図ることを支援するため、免許制度と養成、採用、研修の一体的制度構築

- ・修士レベル化についての検討
- ・高度な実践的指導力を身に付けるための養成の在り方
- ・基礎免許状、一般免許状、専門免許状の創設
- ・社会人等の多様な人材の登用
- ・研修の実施内容・方法についての見直し
- ・教育委員会・大学等が連携した研修等の充実